

2023年10月4日

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート 91号』

「アフターコロナの子育てや生活について」

森永乳業は、「子育て奮闘中の方々のお役に立ちたい」という思いから、1993年4月より「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番」への相談内容から、毎回育児に関する傾向についてまとめています。

エンゼル 110 番は1975年5月に開設され、2023年5月で48年を迎えました。今までにお受けした相談件数は100万件(2022年8月現在)を超えました。相談者は主にママですが、パパやおじいちゃん、おばあちゃんにも広くご利用いただいています。

2023年5月、新型コロナウイルス感染症についての感染症法上での位置づけが「5類感染症」に変更となりました。今回のレポートでは、「5類」への引き下げに伴い、いろいろな制限がなくなったことで、よかったこと、悩みや困っていることについて電話で聞き取り調査をおこないました。5類への移行からまだ日が浅い中で聞き取りで、ママたちの間でも戸惑われている様子が見られました。

「エンゼル 110 番」に電話をいただいたママ 99 人パパ 1 人の主な結果

- よかったこととして「お出かけが自由にできる」「マスクを外せる」といった、控えていたこと、我慢してきたことからの開放を感じたという声があった。
- 規制の解除を歓迎する方は全体の7割を超えた。
- 6割が悩み・困りごとがあると答え、「マスクのマナーが気になる」が最も多く、次いで「感染症が増えていることが心配」が多かった。

◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象	妊娠中～小学校就学前まで
相談員数	16名(管理栄養士、心理相談員など)
ウェブサイト	https://www.angel110.jp/angel110/about/

本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<お客さまからのお問い合わせ先>

育児に関する無料電話相談「エンゼル 110 番」フリーダイヤル 0800-5555-110

※受付時間:月～金曜日(土日、祝日除く)、10～14時

エンゼル 110 番ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

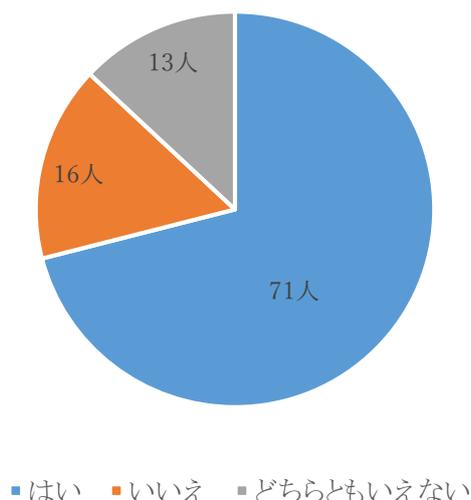
今回のテーマ「アフターコロナの子育てや生活について」

Q1. 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が「5 類」になり、よかったですか？

71 人が「はい」と答え、「どちらともいえない」が 13 人。「いいえ」が 16 人

最初に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が「5 類」になり、よかったと思うかを尋ねたところ、100 人中 71 人が「はい」と答えました。逆に「まだ、ちょっと不安がある」「実感がない」など「いいえ」と答えた方は 16 人で、「よかったこと、悪かったことと両方ある」「仕事も生活も変化がない」など、「どちらともいえない」と答えた方は 13 人いました。(図1)

図1) 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が「5類」となり、よかったですか？ (N=100人)



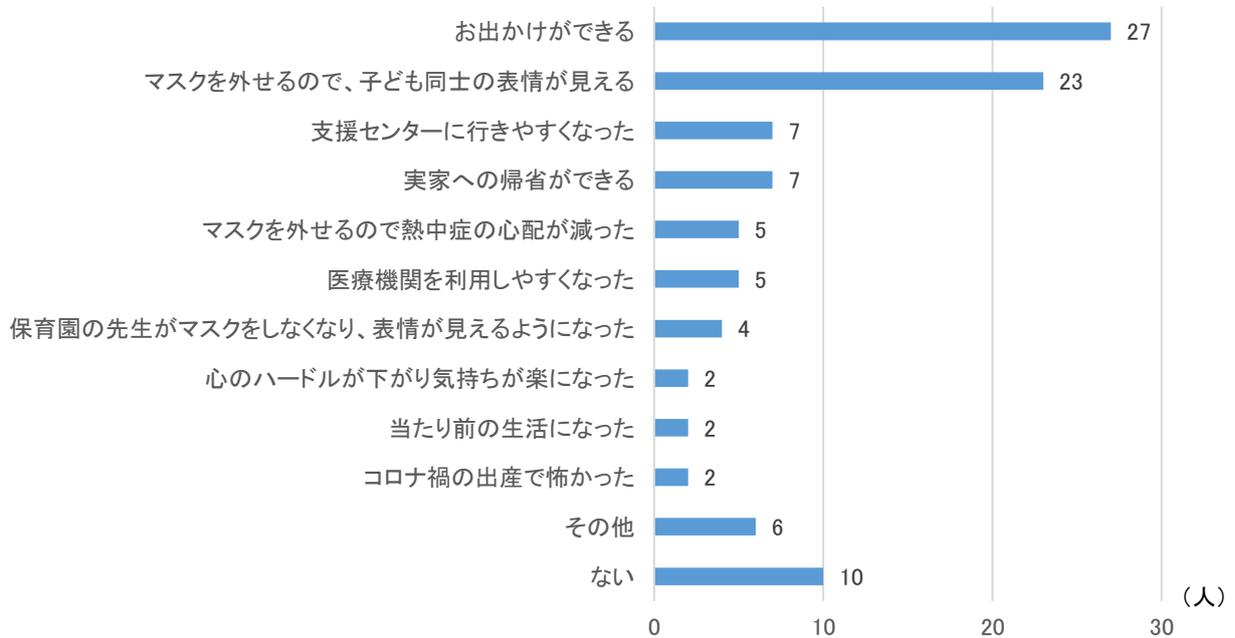
Q.2. 5 類移行後、よかったと思うことはありましたか？

9 割がよかったと思うことをあげ、「お出かけが自由にできる」がトップ

100 人中 90 人とほとんどの方が「よかったこと」をあげています。逆に「ない」と答えた方は 10 人にとどまりました。

よかったことで一番多かったのは、「いろいろなところに遊びに行ける」「外出できる」でした。他にも「人目を気にしなくてよい」「楽しめるようになった」「旅行や外出、実家への帰省ができるようになった」という外出にまつわる様々な声がありました。またマスクを外せるので、子ども同士や園の先生、両親などの表情が見えるコミュニケーションについてもあがりました。

図2)よかったと思うこと(N=100人)



＜ホットボイス＞

☆よかったこと

- ・支援センターの予約がとりやすくなった。その後しばらくして、支援センターの人数制限がなくなり、予約なしで自由に行けるようになった。(8カ月)
- ・いろんなところに遊びに行ける。外出の選択肢も増え、人目を気にせず外に行けるようになった。イベントの復活で子どもと出かけられる(3歳3カ月)
- ・支援センターで、他のママと会話ができるようになった(4カ月)
- ・マスクをしなくてもよいので、子ども同士の表情が見える。また子どもに大人の表情を見せてあげることもできる(3歳)
- ・マスクを外せるので熱中症の心配が減った(1歳)
- ・手指の消毒など施設を使う際の煩わしさがなくなった(1歳6カ月)
- ・保育園や病院でのマスク検温消毒などが緩和された(4カ月)
- ・コロナに感染しても以前ほど不安はない(8カ月)
- ・これからは安心して暮らせる、当たり前の生活になった(5歳11カ月)
- ・人と接することで、風邪などのいろいろな免疫がつけられる(2歳)
- ・医療機関を利用しやすくなった(6歳)
- ・心のハードルが下がり、気持ちが楽になった(1歳10カ月)
- ・保育園の遠足が行われ、集合写真も撮れるようになった。他の行事も復活し、今年はプールもある(4歳)
- ・今しか経験できないことを、させてあげられる(4歳11カ月)
- ・パパ、ママが医療従事者。業務も緩和された(2歳)

- ・支援センターや児童館で食事ができるようになった(4 カ月)
- ・インフルエンザと同等と考えると、神経質にならなくて済む(8 カ月)
- ・子どもに「怖くないよ」と伝えられるし、感染したことによる差別も気にならなくなる(6 歳)

Q3. 5 類移行後、悩み・困りごとはありませんか？

100 人中 63 人が悩み・困りごとをあげ、「マスクのマナーが気になる」がトップ

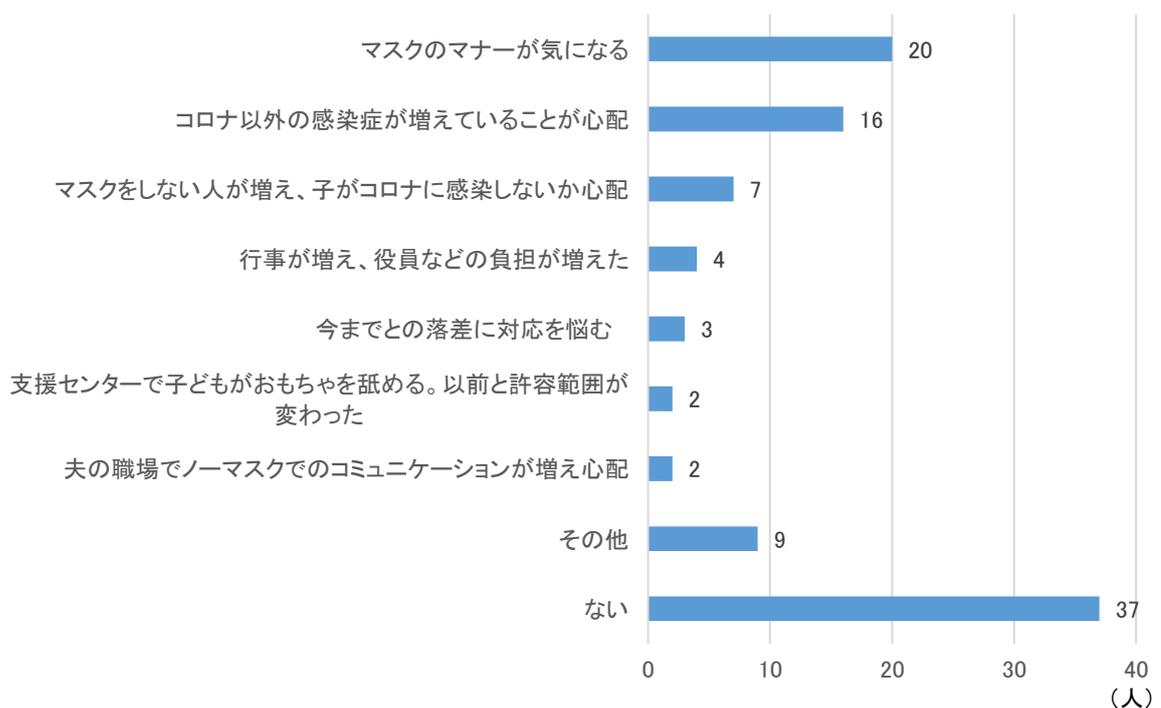
よかったこととは反対に悩み・困りごとについては「ある」と答えた方が 100 人中 63 人でした。「ない」と答えた方は残りの 37 人でした。

「マスクの着用は個人の判断が基本」とはされていても、場所や人に接する仕事では着用を求められたり、周囲の人がマスクをしている中で人目も気になったり、なかなか判断に迷うことが多いようです。マスクについては「子どもたちに表情が伝わるようになった。今まで『ママ、怒っている？』とよく聞かれた(5 歳)」というような声がかれました。表情が見えるようになり、コミュニケーションがとりやすくなる一方、「マスクを外す人が増えて子どもに感染しないか心配」といったマイナスの評価もありました。

具体的には「咳をしているのにマスクをしていない人がいる」「マスクをしていないときの行動マナーを子どもにどう教えるか迷う」といったマスクのマナーが気になる人が多くいました。また、マスクを外す人が増えたことで心配なこととして「子どもがコロナに感染しないか」「コロナ以外の感染症にかからないか」という声も上がりました。

ここ数年のふれあいの少なかった自粛生活の影響で子どもたちが病気にかかる機会が少なく、マスクが外れてから RS ウイルスやヘルパンギーナなどの感染症が流行り始めていることに不安を感じる方が多くいらっしゃいました。

図3) 明けて悩み・困りごとはありませんか？(N=100人)



＜ホットボイス＞

☆悩み、困りごと

- ・夫の職場での意識が変わり、以前より休みが取りづらい。職場の飲み会が再開されて、ノーマスクでのコミュニケーションが増えてきて心配(4歳5カ月)
- ・行事が増えて、PTAの係などの負担が嫌(6歳)
- ・まったくコロナがなくなった訳ではないので、今まで過剰に反応していた分、どのように対応すればよいか悩む部分がある。小さな子どもがいるので気をつけようと思うが、どの程度気を付ければよいか気になる(2歳2カ月)
- ・支援センターのおもちゃをなめることに対して、コロナ前と比べて気になってしまう自分がいる(9カ月)
- ・免疫力が落ちているのか、RSウイルスやヘルパンギーナ感染症が増えていることが心配(1歳)
- ・病院などでの検温、マスクの規制がなくなり不安になる(1歳8カ月)
- ・第2子はコロナ渦の出産で家族の立ち会いがなく一人でとても怖かった。健診が延期になったり、人と会うことが減ったりしたせいか言葉の発達も遅かった。(3歳)
- ・第2子を妊娠中なので、コロナへの感染が心配(1歳10カ月)
- ・規制が緩和され、自由に活動する人が増えて、高齢者、妊婦、小さな子どもなどハイリスクな人たちが心配(10カ月)
- ・マスクなしのときの行動マナーを子どもにどう教えたらいいか迷う。(3歳8カ月)
- ・マスクをしていないときに「大きな声で話をしてはダメなのはなんで？」と聞かれ、理由を説明するのに困った(3歳10カ月)
- ・心配するときにないが、子どもが将来どうなるかわからない。何年後にどうなっているとか、後からわかることもあるし・・・(5歳11カ月)
- ・近くの病院でコロナの患者さんがいるし、自分でもマスク生活を続けている。買い物も人の多い時間帯は避けている(3歳)
- ・ママはマスクを外したい派だが、人目が気になる。マスクの自由がかえって、どっちにすればよいか迷う(4歳11カ月)

[まとめ]

今回のアンケートは、2023年5月に新型コロナウイルス感染症についての感染症法上の位置づけが「5類」になり、そこから2ヵ月余りとまだ日が浅い中での聞き取りで、ママたちの間でも戸惑われている様子が見られました。「よかった」と思いながらもお悩みや困りごともあり、一概に「よかった」「よくない」と線引きはできないようです。「コロナがなくなった訳ではない」という慎重さを求める意見と、「これからは安心して暮らせる」「気持ちが楽になった」という前向きにとらえる声が混在し、親自身も気持ちが揺れていることが感じとれました。

印象的だったのは、コロナ禍で妊娠、出産を経験し、一人で怖かったというママたちが少なからずいたことです。「妊娠中からずっと遮断された世界だったから、公園の遊び方とかママ自身がわからない。コロナ前を知らないから、触れ合って何？って感じる(2歳)」という、子どもとの接し方をどうすればよいかわからないというママや「妊娠、出産、子育てがすべてコロナ禍のため、とても怖い思いをした(3歳)」という、過去に例がない中での妊娠、出産体験もあがりました。

エンゼル110番に寄せられる相談も、ここ数か月の間に、コロナ禍で見えない不安を訴えるような相談は減少傾向にあります。これからもエンゼル110番では、今回のアンケートの声も参考にしながら、揺れ動くママたちの心に寄り添うようなアドバイスを心がけていきたいと考えています。

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル110番」に電話をいただいたママ99人パパ1人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 2023年5月25日～7月6日
- 対象者の属性 : 母親、父親の年齢 20代…12人、30代…72人、40代…9人、50代…1人、不明…6人
子どもの年齢 6ヵ月未満…8人、1歳未満…15人、1～2歳…35人、3歳以上…37人
不明…5人

エンゼル110番レポートのバックナンバー

1993年4月	第1号『離乳食』
1993年7月	第2号『初めての泊りがけ旅行』
1993年10月	第3号『胎教』
1994年1月	第4号『お年玉』
1994年5月	第5号『夫の育児参加と妻の満足度』
1994年8月	第6号『妊娠中の食事について』
1994年11月	第7号『育児雑誌を読みますか』
1995年2月	第8号『早期教育は必要ですか』
1995年5月	第9号『赤ちゃんのアレルギー、気になりますか』
1995年8月	第10号『どんな出産をしましたか』
1995年10月	開設20周年記念冊子『60万件の電話相談から』
1996年11月	第11号『子育て費用をどう考えますか』
1996年2月	第12号『子どものことを夫婦で話し合っていますか』
1996年10月	第13号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか』
1996年12月	第14号『理想の父親像と母親像』
1997年4月	第15号『子育て中のお母さんの自由時間』
1997年6月	第16号『子どもを預けたことはありますか』
1997年9月	第17号『子育て中のストレス解消法』
1997年12月	第18号『かかりつけのお医者選び』
1998年4月	第19号『“格好いいお母さん”が当たり前？』
1998年6月	第20号『35歳からの子育て』
1998年9月	第21号『これからはママもパソコン使います』
1998年12月	第22号『35歳からの子育て パートⅡ』
1999年3月	第23号『実家とどうつきあっていますか』
1999年6月	第24号『子どものアレルギーについて』
1999年9月	第25号『子ども連れのお母さんが見た街作り』
1999年12月	第26号『子育てが楽しいと感じる時』
2000年3月	第27号『離乳食は得意ですか』
2000年6月	第28号『子育て仲間はどこで見つけましたか？』

2000年9月	第29号『子連れで海外旅行に行きましたか?』
2000年10月	開設25周年記念冊子『医療関係者向アドバイスブック』
2000年12月	第30号『私たちのミレニアム・ベビー』
2001年3月	第31号『ママたちのIT革命』
2001年6月	第32号『子どもが生まれて夫婦関係が変わりましたか?』
2001年9月	第33号『妊娠してからの食生活の変化』
2001年12月	第34号『絵本の読み聞かせをしていますか』
2002年3月	第35号『育児日記をつけていますか』
2002年6月	第36号『ママたちの再就職事情』
2002年9月	第37号『テレビやビデオをどのように見せていますか』
2003年1月	第38号『夫の育児参加と妻の満足度(その2)』
2003年4月	第39号『子育てにインターネットを活用していますか?』
2003年7月	第40号『子育てコストとママの生活満足度』
2003年12月	第41号『ママたちの育児スタート 一産後に望む支援サービス』
2004年4月	第42号『子育てママの喫煙・禁煙』
2004年9月	第43号『信頼できる育児の情報源とママたちの満足度』
2004年11月	第44号『ママたちの産院選びと立ち合い出産の実態』
2005年3月	第45号『妻の実家・夫の実家、どう付き合っていますか?』
2005年7月	第46号『赤ちゃんのアレルギー・気になりますか?』
2005年11月	第47号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか?』
2006年4月	第48号『子育てママの携帯電話活用法』
2006年7月	第49号『子ども連れで初めての泊りがけ旅行』
2006年11月	第50号『子どもは何人ほしい?』
2007年2月	第51号『子どもに習い事をさせますか?』
2007年8月	第52号『「3歳児神話」をしていますか?』
2008年1月	第53号『子どもを預けたことがありますか?(その2)』
2008年4月	第54号『「お母さんになったな」と初めて感じたのは?』
2008年9月	第55号『結婚前の料理経験はどれくらいですか?』
2009年1月	第56号『ここが困った!子連れ外出事情』
2009年5月	第57号『不況に負けない!ママの明るい節約術』

2009年9月	第58号『孫育て』
2009年11月	第59号『ママ友とおつきあい、どうしていますか?』
2010年5月	第60号『夕食の献立どうやって考えていますか?』
2010年8月	第61号『子育て支援で、本当にしてほしいことは?』
2010年11月	第62号『パパはイクメンですか?』
2011年2月	第63号『35年で変わったこと、変わらなかったこと』
2011年5月	第64号『育児日記をつけていますか?』
2011年9月	第65号『ママたちの節電対策』
2012年1月	第66号『今、大切にしたいもの』
2012年6月	第67号『育児で心配になったきっかけとその解決方法』
2012年11月	第68号『子育てママのお正月』
2013年3月	第69号『名づけ』
2014年4月	第70号『赤ちゃんを抱っこしたことはありましたか?』
2014年12月	第71号『母乳への意識』
2015年4月	第72号『現代のママ事情』
2015年7月	第73号『「食べない子」「食べすぎる子」のママの悩み』
2015年9月	第74号『子育てしやすい街の条件』
2015年11月	第75号『働くママの気持ちと職場の理解』
2016年6月	第76号『ママたちが活用しているアプリは?』
2017年1月	第77号『結婚前の料理経験はどのくらいですか?』
2017年7月	第78号『なぜ、今「電話相談」なのか』
2017年11月	第79号『ママたちのストレスとその解消法』
2018年3月	第80号『2017年 年間統計』
2018年8月	第81号『ママたちの育児スタートは?』
2019年2月	第82号『2018年 年間統計』
2019年10月	第83号『ここが困った!子連れ外出事情』
2020年3月	第84号『2019年 年間統計』
2020年7月	第85号『コロナ禍で寄せられたママたちの不安と悩み』
2020年10月	第86号『離乳食ー昔と今 ~変わったこと・変わらなかったこと~』
2021年3月	第87号『2020年 年間統計』

2021年11月	第88号『おうち時間の過ごし方』
2022年2月	第89号『2021年 年間統計』
2023年3月	第90号『2022年 年間統計』